

神戸支部 時局講演会

日 時：2021年12月6日（月）15:00～16:30

場 所：ホテルオークラ神戸 松風の間

神戸市中央区波止場町2-1（代表078-333-0111）

演 題： グローバリゼーションと経済安全保障の均衡点を考える

講 師： 亜細亜大学 国際関係学部国際関係学科 教授 く の 久野 あらた 新 氏

《プロフィール》

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社、経済産業省通商政策局（出向）などを経て、2012年に慶応義塾大学より博士号（経済学）を取得。横浜国立大学非常勤講師、杏林大学総合政策学部准教授などを経て、2020年より現職。慶應義塾大学非常勤講師、一般財団法人国際貿易投資研究所客員研究員、および公益財団法人環日本海経済研究所共同研究者などを兼務。2021年には公益財団法人日本関税協会「RCEP 関税・貿易政策研究会」の委員を務める。

このほか日本国際問題研究所、日本国際フォーラム、日本関税協会、経済産業研究所などで委員を歴任。国際貿易、通商政策、アジア太平洋地域の経済統合、経済安全保障などの分野を調査研究。通商政策、FTA、メガEPAなどに関し、寄稿、講演等多数。

- (主な著書) 単著「医療物資貿易の現状と国際協調の必要性」2021.9 文眞堂
単著「RCEPを通じた日中韓の貿易自由化」2021.8 環日本海経済研究所
単著「RCEP コメントール第2回：第2章物品の貿易」2021.5 日本関税協会
共著「TPP コメントール」 2019.6 日本関税協会
(所属学会) 日本国際経済学会、アジア政経学会

<講演の要約>

戦後、「経済的な相互依存の深化こそ世界平和をもたらす」との考えのもと、西側先進諸国は貿易投資の自由化を推進してきた。GATT/WTO レジームの誕生、欧州における経済統合、そして中国の WTO 加盟承認も、そうした前提と期待に基づくものであった。しかしながら2010年代後半以降、グローバル化に対する反動から、あるいは米中間の覇権争いの深刻化に伴い、「行き過ぎた相互依存はリスクである」との懸念が徐々に顕在化した。そして2020年、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るうなか、各国で輸入医療物資の供給が途絶えると、そうした懸念は一気に世界中に伝播した。各国で保護主義がまん延するなか、自由貿易体制の守護神としてCPTPPやRCEPといったメガFTAを最後まで推進してきた日本でさえ、もはや例外ではなくなった。

本講演では、米中経済のデカップリング、中国における経済制裁の制度化、コロナ禍で生じたような重要物資の不足問題など、日本が直面しうる経済安全保障上のリスク、ならびにRCEP、TPP、クワッド（日米豪印）といった枠組みの動向に触れながら、グローバリゼーションの利益と経済安全保障のバランスのあり方について検討を行う。